

漁獲量維持増大を目指しサクラマス稚魚6万尾放流 ～サクラマス稚魚放流式～

7月1日（木）、村水産振興推進協議会（越善靖夫会長）主催により、老部川内水面保護水域において、サクラマス稚魚放流式が行われました。

放流された稚魚は、昨年8月中旬から10月中旬に老部川に遡上した親魚から採卵し、ふ化後約7ヶ月間、老部川内水面ふ化場で飼育したもので、サイズは平均尾叉長7.0cm、体重5gです。今回は老部川に6万尾が村内漁業協同組合長、むつ水産事務所、東京・東北電力等関係者約50名の手により放流されました。また、これから小老部川と野牛川に各2万尾の計10万尾が放流予定です。

今年で13回目となるこの放流事業は、村と村内各漁協がサクラマスの稚魚を買い上げ、内水面漁業経営の安定とサクラマス漁獲量の維持増大を目的として行っている事業です。

村としてもサクラマスは「つくり育てる漁業」の重要かつ貴重な魚種として大いに期待をしているところであり、この事業を今後も継続していき、さらなる資源倍増を図っていきたいと考えています。



御神酒を川へ注ぐ越善村長



関係者による放流

津軽刺しこぎん「餅つき踊り」寄贈

7月1日（木）、青森県平川市在住の津軽刺しこぎん作家である田中敏昭さんより、東通村の餅つき踊りをモチーフとした作品が、越善村長へ贈られました。

刺しこぎんとは津軽地方に伝わる技法で、本来は服や財布等の装飾に用いられますが、田中さんはその技法を使用し、絵画のような作品を作り上げます。

田中さんは、以前、東北電力株式会社勤めておられ、平成6年から13年まで東通村で勤務されていました。写真が趣味であり、村の風景や伝統芸能などを撮影し、その写真をもとに、約1年半をかけて丁寧に作り上げました。東通村をモチーフにした作品は「物見崎の朝」「餅つき踊り」「漁火」の3作品を作成されているとのことですが、その中より「餅つき踊り」を寄贈いただきました。

寄贈いただいた作品は庁舎内に展示させていただく予定です。
貴重な作品を寄贈いただきありがとうございます。ございました。



寄贈された作品「餅つき踊り」



越善村長に作品を寄贈する田中敏昭さん（左）